第28号
令和2年3月

沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College










目　次

1. 校長より …… 2
2. 卒業生へ贈る言葉 …… 3
3. 卒業にあたって …… 4～5
4. 学年の学生の様子 …… 6～7
5. 修了生へ贈る言葉、後援会会長挨拶 …… 8
6. 修了にあたって …… 9
7. 学生主事・寮務主事あいさつ …… 10
8. 学生会・寮生会より …… 11
9. 第15回高専祭 …… 12
10. ロボット製作委員会 …… 13
11. 就職・進学に向けた活動状況報告 …… 14～15
12. インターンシップ体験記 …… 16～17
13. 就職・進学・志願状況、
令和2年度学生募集結果一覧 …… 18～19
14. 令和2年度（前期）行事予定表 …… 20

独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL：0980-55-4003　FAX：0980-55-4012
WEB▶http://www.okinawa-ct.ac.jp



沖縄工業高等専門学校

校長　安藤 安則

校長の安藤です。この度の卒業式・修了式、誠におめでとうございます。また、保護者の皆さんをはじめ、後援会、沖縄高専産学連携協力会の皆様方には、平素より沖縄高専の教育、研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝いたします。

さて、世界的な動向をみますと、米中貿易紛争の今年一月の一時的休戦がありましたが、緊迫したイラン情勢による経済的混乱が拡大し、英国の EU 離脱が現実になり、また中国や北朝鮮による近隣諸国への脅威、新たな新型コロナウイルス肺炎感染の世界的な急激な拡大等は今年も引き続き大きな懸念事項となり注意深く見守ってゆく必要があります。

観点を変えて我々の身近について考えますと、今年は令和 2 年となり、通信システムの 5G の試行が始まり、更にアジアで初めての 2 回目の東京オリンピック・パラリンピック開催の特別な年になります。第一回目の 1964 年東京オリンピックの際には、当時中学一年生だった自分にとって、柔道のヘーシンク選手、東洋の魔女と称された日本女子バレーボールチームや、聖者の走りともいわれたマラソンのアベベ選手等の活躍が強く印象に残っています。当時の日本は戦後復興の真っ最中、GDP成長率約12%、新幹線開通、鉄鋼や造船等の重厚長大産業が凄まじい勢いで成長を遂げていました。現在の日本では、GDP 成長率 1%台ですが、世界的な規模で IoT やモノづくりテクノロジーの上に AI（人工知能）やロボットによる第 4 次産業革命の時代に突入し、56 年前の日本と職業の種類や働き方が大きく異なってきました。この様にグローバル化がより深化した現代の企業・研究機関などは、其々の専門分野の知識の上にロボット、AI やデータマイニング等の情報応用テクノロジーを身に着けた人材を求めている事を念頭に置く必要があります。

沖縄高専は開学以来、人材育成と地域貢献を重要なミッションとして取り組んで参りました。前述の国内外の大きな変化の下で、沖縄高専は、前途ある有能な学生を迎え入れ、沖縄高専の特長ある工学教育を実践し、企業や大学・大学院等へ卒業生を送り出してゆく事を大きな目標としております。特に厳しい競争社会の中で強く生き抜ける人材育成を教職員一丸となって推進する所存でありますので、保護者の方は勿論、沖縄高専産学連携協力会等の関係各位の皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

結びに、旧年にも増して関係各位に本校の教育・研究にご理解を頂き、更なるご協力・ご支援を賜りますようにお願い申し上げまして、私のご挨拶といたします。

卒業生へ贈る言葉

５学年学科担任



機械システム工学科

眞喜志 隆

機械システム工学科 12 期生の皆さん、卒業おめでとうございます。富澤先生に代わり４年と５年の副担任を担当してきました。短い期間ながら、インターンシップや進路活動では、多少なりともお手伝いできたかと思っております。

15 歳で入学して 20 歳で卒業する高専での生活はどのようなものでしたでしょうか。寮生活はどうでしたか。学科を越えた友人はできたでしょうか。どの学校でも、機械工学は学ぶことが多い学問分野で、専門の勉強にはかなり苦労したことと思います。その代わりといっては何ですが、どのような分野でも適応していけるのが機械工学を学んだ人材であると私は考えています。就職した人も進学した人も、それぞれの進路先で頑張って下さい。

この５年間を振り返ってみて、途中からの担当でしたが副担任として感じたことは、今の自分があるのは、これまでの自分の行動や体験の結果であるということです。これまでを変えることはできませんが、これからを変えていくことは可能です。この５年間で学んだことや反省点を今後の人生に活かしていってください。学校は学生を守る方向に考え動く組織と思っていますが、社会に出ればかなり違ってきます。また、勉強は学校の中だけと思っているかもしれませんが、今後将来にわたりいろいろな意味での学びは一生続きます。このことを忘れずに将来に向かって進んでいってください。卒業は一つの区切りとなりますが、これから新しい生活が始まる起点にもなります。今後の皆さんの人生が、より良いものになることを願っています。卒業おめでとうございます。



情報通信システム工学科

宮城 桂

５年間の高専生活、本当にお疲れ様でした。皆さんの入学当時の写真などを見ながら、色々な思いにふけています。内面だけでなく、外見も色んな面で成長したね。

さて、先ずは５年生になってから一人の脱落者も出ず、厳しい卒研を乗り越え無事卒業できた事に、担任として安堵しています。高専は、卒業要件も厳しいですが、そんな高専を無事に卒業した皆さんは、それだけでも本当に凄い事だと思います。ただ、未だに心配な点はすぐに気が緩んでしまう、そんな特性を持つ学生がまだ見受けられます…。自覚は持っているようですが、社会は高専以上に厳しい環境でもあります。より一層気を引き締めるように！！お願いします。加えて、これまで支えてくれた保護者や友人、先生方への感謝の気持ちも忘れないでください。

４月からは、それぞれが新たな環境で生活をスタートする事になりますが、最後に１点だけ担任からのお願いです。この卒業を機に、新たな『夢』を見つけてください。そして、夢が幻想や幻で終わらないよう、具体的にイメージして口に出して伝えてください。さらに、その実現に向けて様々な事にチャレンジしてください。自ら行動して得た成功や失敗は皆さんをより一層成長させるための糧になります。そして、その継続がいつか皆さんの夢を叶えると思います。今まで色んな学年を見てきましたが、12 期は様々な事に積極的な学年だったと感じています。だからこそ、皆さんの中から『沖縄が生んだ第二のスティーブ・ジョブズ』と言われるような人材が出てくる事を切に願っているし、それが私の夢です。その暁には、ぜひ本校宛てに求人票（中途採用向けも含む）を送ってください。夢が叶うまでは、私も沖縄高専で走り続けたいと思います。

最後に、これまでを振り返ると皆さんの担任を任されたおかげで私自身、多くの事を経験し、学ぶ事ができました。共に成長する事ができた充実した５年間だったと実感しています。皆さんから得た知見や経験は、新しく入学してくる学生達に活かしていきたいと思います。今まで本当にありがとう。

取り留めないですが、とにかく卒業おめでとう！！



メディア情報工学科

玉城 龍洋

メディア情報工学科５年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。４年生からの２年間の担任でしたが、インターンシップや就職・進学活動など社会と接する機会の多い大変な時期に皆さんの成長を見守れて嬉しく思っています。

高専の５年間はいかがでしたか。高専生活を夢見て受験に挑み、合格の喜びから、難しい講義やルールの厳しい寮生活など、実際には楽しいことだけではなくつまらない事や苦しい事もあったかと思います。でもその全てが、皆さんが高専で学んだことで、この些細な事や嫌だった事ですら皆さんの人生のチカラになります。私の経験で間違いありません。皆さんは高専生活の中で確実に成長しました。

卒業する皆さんへ伝えたい事があります。皆さんは家族や学校に守られて成長してきました。就職し独り立ちすると見えなかったこの社会の荒波に自分自身で直接立ち向かわなければなりません。大学だって高専ほど矢面にたってはくれません。これまで許されてきた事が許されず、気づかないうちに周囲がやってくれていた事にも自分で対処しなければならなくなります。きっとその未知の場面に戸惑い、悩むこともあるでしょう。でも大丈夫です。それは私も含めて、みんなが最初はできなかったことです。家族や友人、周りの社会が助けますし、経験と時間が解決することでもあります。皆さんに覚えていて欲しいことは「話すこと」。誰でも何処でもいいです。もちろん、私も何時でも聞きます。皆さんが直面する悩みはオリジナルの悩みではなく、過去に誰かが通った道です。相談しましょう。解決法が聞けなくても、人は共有するだけで心が少し軽くなります。

最後に、社会は苦労することも多いですが、大きな未知の世界が広がっていて、楽しい事が山ほどあります。楽しんでください。



生物資源工学科

玉城 康智

生物資源工学科 12 期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学科教員を代表して、担任より皆さんの門出を心からご祝福いたします。この５年間を振り返り、最も心に残ることは何ですか？入学式や体育祭、高専祭、研修旅行、インターンシップ、進学・就職活動、卒業研究、等々。皆さんは目の前のことに一生懸命取り組み、卒業を迎えた今、あっという間に過ぎたのではないでしょうか。私は 12 期生のクラス担任を担当することになり、決めていたことがあります。それは学生より先に物事を進めないことです。学生が企画するイベントはもちろん、インターンシップの企業選びなども学生が自ら考え、行動してほしいと考えていました。それは「常に自分で考え行動する。一人でできないことは協力して行う。」という学生を目指してほしかったからです。心配事は多々ありましたが、５年生になる頃にはイベントごとにクラスの有志が話し合い、全ての行事を自分達で遂行していました。卒業を迎えた今、私自身もクラスの皆さんに支えられ、担任の仕事を終えることができたと実感しています。皆さんには大変感謝しています。

沖縄高専本科の卒業は、皆さんにとって通過点の一つかもしれません。しかし、その通過点で達成感を経験し、目標を達成できなかったことは反省し、次のステップに繋げて下さい。私が思うように進まないことが多々ありましたが、皆さんを無事卒業まで導くことができて良かったと思います。これも、生物資源工学科教員の協力と副担任の平良先生が支えてくれたお陰です。大変感謝しております。これから皆さんは、それぞれの目標に向かって進んで行きますが、これからも 12 期生同士で連絡を取り合い、困った時には支え合える環境を築いて下さい。そして、時々は沖縄高専に来て私達に元気な顔を見せて下さい。これから、皆さんには想像もできない様々な出来事が待っています。これからの皆さんの活躍を楽しみにしています。

卒業にあたって



機械システム工学科

齊藤 主丸

果てしなく長いと思っていた５年間の高専生活も、振り返ってみると驚くほど早く過ぎ去って行きました。入学したばかりの頃は友達ができるのか、また、高専という特殊な環境でやって行けるのかなど様々な不安を抱えながら過ごしたのを覚えています。初めて触れる工作機械や慣れない寮生活、新しい部活動など今までの生活が一変して初めはきついなと感じることも多かったのですが、寮生活や部活動などを通して友人や先輩などの人脈が増えるにつれて本当に楽しい生活が送れるようになりました。

高専生活の中では、自分ひとりの力ではこなすことが難しいテストや課題等がいくつもありましたが、クラスメイトや同じ学科の仲間と協力することで一つ一つクリアすることが出来ました。

また、学業だけでなく創造研究や部活動、アイディアコンテストなどへの挑戦、指導寮生やフロア長としての活動も、高専ならではの貴重な経験だったと思います。

学生生活の中で何度も辛い時期がありましたが、日常生活や部活動、高専祭、その他イベントなどを通してそれを上回る楽しい思い出や経験を得ることが出来ました。そしてここでしか出会うことのできない仲間と出会えたので本当に良かったです。

これまで担当してくださった先生方や、同期の仲間には本当に感謝しています。

まだまだこれからではありますが、ここで得られた経験や学んだ知識を糧に頑張っていきたいです。

５年間本当にありがとうございました。



機械システム工学科

照屋 結衣

長いと思っていた５年間はあっという間で気付けば卒業が目前に迫っていました。

私はこの場で何かを語れるほどのことを在学中にしてきたとは胸を張ることができませんが、私が在学中に感じていたことを書きたいと思います。

期待に胸を躍らせて始まった学校生活は楽しかったことばかりではなく、辛かったこともありました。自分が好きだと思っていたものが実はそうでもなかったと気づかされたり、元々勉学に富んでいたわけではなかったため周りとの学力差に愕然としたりと学校をやめようと何度も思いました。就職活動が本格的に始まった頃、周りがどんどんと内定や進路が決まっていく中で、将来自分がどの職業に就きたいのか、何をしたいのかが本気でわからなくなり周りに置いて行かれるような感覚に悩んでいたこともありました。５年生になってお先真っ暗な状態になるなんて１年の頃の私では想像もできなかったです（これは勉強に関しても同じような状況でした）。そんな中でも退学という選択をせずになんとかここまでやってこれたのは、同期を含め先輩・後輩、先生方と多くの人が支えてくれていたからです。どんなにしんどいときでも頑張ろうねと声をかけてくれた同期、いつだって相談に乗ってくれた先輩、こんな頼りない私を様々な場面で支えてくれた後輩、何かあれば話を聞いてくれた先生、そんな素敵な人たちと出会えたからこそ私はなんとかやってこれました。

辛いこともありましたがなんだかんだ学校生活を楽しんでもいました。この場には書ききれないほどの様々な経験をすることができとても充実していました。きっと他の学校に進学していたらできなかったことばかりです。この学校に入学したことを後悔したこともありましたが、今ではこの学校に入学できて良かったと心の底から思っています。

最後になりますが、ずっと支えてくれた先生方・同期のみんな、そして心が折れそうになったとき何度も何度も励ましてくれた家族に感謝しています。本当にありがとうございました。



情報通信システム工学科

島袋 隆也

サマースクールで初めて高専に来た時、学校と寮をつなぐ橋や吹き抜けを見て、「なんだ、この近未来的な学校は！？」と圧倒されたのを覚えています。入学してからの５年間は、授業や部活動、インターンシップ、受験など忙しくてあっという間に過ぎていきました。

沖縄高専の生活で最も印象的なのは、やはり、受験勉強です。モチベーションの維持が難しく、YouTube やアニメに逃げてしまうことも多々ありました。しかし、インターンシップをきっかけに「自分の人生は自分で責任を持たないといけない」と考えるようになり、それからは自律して生活できるようになりました。無事、第一志望に合格し、前向きな気持ちで卒業できることを本当に嬉しく思います。

一匹狼の集まりと呼ばれた 12 期情報生でしたが、研修旅行を期に仲良くなりはじめ、今では、イベントを楽しみ、協力しあえるクラスになりました。信頼関係も高まり、貴重な友好関係を築けたと思います。

卒業後は、沖縄を離れ、関東の大学に進学します。新生活は楽しみであると同時に不安の気持ちも大きいです。それでも沖縄高専で学んだ経験や知識を活かし、挑戦する心を大事に持ちながら自分らしく成長していきたいです。

最後になりますが、これまで協力、応援してくださった教職員の先生方や友人、そして両親、本当にありがとうございました。



情報通信システム工学科

仲宗根 綾乃

高専に入学してから５年が過ぎ、卒業する年になってしまいました。振り返ってみると楽しいことも苦労も多く、入学当初は不安もたくさんありました。

まず、友達ができるか不安でしたが、寮で仲よくなったり、1、2 年は混合学科ということもあり、友達にも恵まれました。そして部活動に入ったことで友人との距離も縮まり、切磋琢磨した先輩・後輩とは上下の繋がりも深めることができたと思います。また５年間ということで信頼関係も高まり、すごく貴重な友好関係が築けたと思います。

そして今振り返っても定期テストは大変だったと感じます。科目数の多さと内容の難しさに驚きましたが、友人たちに教えてもらったり、ときには、先生に手厚く教えて頂き、無事５年生まで上がることができました。本当にありがとうございました。

私は今年の春から県内企業に就職することになります。毎日学校で顔を合わせていた友人と離れ、急に社会人になることに対して、寂しさと不安もありますが、高専の５年間で学んだことを社会人生活で活かせるよう努力したいと思います。

最後に、５年間お世話になった教職員の方、友人、両親に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



メディア情報工学科

垣花 周

私の高専生活は「ICT 委員会」と呼ばれている部活に入部(入会?)したことがすべての始まりと言っても過言ではない。そこは部員同士がハンドルネームで呼び合うという異様な空間。ちなみに今となっては、部員以外からもハンドルネームで呼ばれ、本名で呼ばれることはまずない。さて、私はこの部活で主に「情報オリンピック」と「高専プロコン競技部門」の２つに情熱を注いだ。「情報オリンピック」は全国の高校２年生以下で数理情報科学能力を競う大会である。この大会の予選を突破するために、先輩に教わったり、同級生と一緒に過去問を解いたりしていた。これらの努力が実り、予選を突破して本選に出場することができた。「高専プロコン競技部門」は全国から高専生が集まり、与えられた課題を解くプログラムを持ち寄り競い合う大会である。残念ながら良い成績を残したとは言えないが、チームメンバーと協力しながらプログラムを作るという通常では味わえない体験をすることができた。(これら以外にも多くの経験をしたが、この余白はそれを書くには狭すぎる。)

このような経験をすることができたのは「心地よさ」というものが存在していたからだと思う。全員がそうだとは言わないが、少なくとも私にとってはこの環境がとても心地よいものであった。しかし、これは当たり前ではない。この環境づくりに関わってくれた友人たち、先生方、この環境に飛び込ませてくれた親に感謝の意を示したい。



メディア情報工学科

知花 朱里

卒業する前に、私がこの場を借りて皆さんに伝えたいことはたった一つ、「一つでもいいから何かに挑戦してほしい」ということです。

特に、「学生のうちにできること」を一つでもいいから挑戦してほしいと心から思います。例えば、プログラミングコンテストに出たり、研究の成果を学会で発表したり、海外へ研修・留学に行ったり、自主制作したアプリやコンテンツを周りに発信したりなど、学生のうちにできることは山ほどあります。もちろんこれらは社会に出てからもできますが、「学生」という最強のブランドをフル活用せず、なんとなく日々を過ごすのはあまりにもったいないことだと思います。なぜなら、学生はたくさんの時間を持て余していて、なおかつ「学生のために」と手を差し伸べ、挑戦の機会を与えてくれる人が山ほどいるからです。

「学生」というブランドを惜しみなく使える今のうちに、一つでもいいから何かに挑戦してほしいです。挑戦することで得られるたくさんの失敗や成功から、授業では学べない専門知識や、自分自身のことなど、たくさんのことを学んでほしいです。

そうして挑戦することで学んだことや経験は、重い腰を上げてくれる力となり、自身が技術者として成長するための糧となり、そして将来の道標となってくれるはずです。

「あれに挑戦していたから今の自分があるんだ」と胸張って言えるように、「学生」というブランドをフル活用して、後悔のない充実した高専ライフを送ってほしいと思います。

学生の皆さんが泥臭く挑戦している姿を見れるのを楽しみにしています。私も気を引き締めて、学生ブランドが剥奪されたあとも何かしらに挑戦していきたいです。

最後に、私に挑戦の機会をたくさん与えてくれた先生方や学生の皆さんに、この場を借りてお礼申し上げます。５年間ありがとうございました。高専生活楽しかったです！



生物資源工学科

島袋 未悠

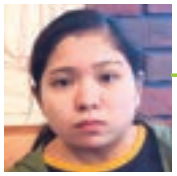
沖縄高専に入学する時は「5 年間も長いな」と思っていました。卒業する今では「5 年間あっという間だったな」という真逆の気持ちになっています。入学してすぐ親元を離れ寮生活になり、今まで過ごしてきた環境ががらりと変わって慣れるのに必死だったのを覚えています。また、勉強面では赤点のハードルが高くみんなで必死に勉強したテスト期間も今ではいい思い出です。

私は、４年生で高専祭実行委員長として高専祭を運営する立場となりました。そのおかげで色んな立場の意見を聞くことができ運営の難しさや人の上に立つことの責任感、たくさんの人に支えられていることなど実行委員長にならないと分からなかった経験でした。

その反面、学会やコンテストなど高専にしかないチャンスに挑戦していないのが高専生活の少しの後悔です。私は４月から県外で社会人として歩み始めます。この後悔を活かし新たな環境でも頑張りたいと思います。

沖縄高専で過ごした長いようで短い５年間は私にとって一生の宝物です。

最後になりますが、この５年間支えてくださった先生方、家族、楽しい思い出にしてくれた最高の仲間達に感謝しています。本当にありがとうございました。



生物資源工学科

新垣 さくら

沖縄高専に入学した当時はとても長いと思っていた５年間が、気づけばもう終わろうとしていることに驚いています。５年前の４月に初めて親元を離れて、知らない人ばかりの環境で生活するという寂しさで、入学式の夜に１人で泣いたのをよく覚えています。２年生になって初めてそのことをカミングアウトした時、みんなから共感されて、やっぱりみんな昼間は元気だけど、夜になると病むんだなと思いました。

高専に入学して、いろいろな出来事があり、５年間でずいぶんと私自身の人格が変わったと思います。寮の補食室で変な食べ物を食べたり、学生会でイベントの企画をしたり、おじさんの格好をしたり、初めてタイに行ったり、手術したあとに盛りブラをつけていると勘違いされたり、singing girls で島豆腐の実験をして学会に参加させてもらったり、歌を歌って怒られたり、いろいろなことがありました。

学校生活をしている中で、先生方や周りの皆さんに迷惑をかけてしまったという自覚がとてもあります。申し訳ございません。でも本当に楽しい学校生活でした。みんな、高専に青春はないって言いますが、私にとってこの５年間は青春そのものでした。もうこんなに青春をすることはないんだろうなと思うと、寂しくて仕方がありません。私は、専攻科に進学するので、同級生がみんな卒業して寂しくなりますが、あの頃が一番楽しかったと思わないように、専攻科も、その先も精一杯生きていきたいと思います。

学年の学生の様子



第１学年主任より

第１学年主任
総合科学科
２組担任
和多野 大

みなさんが高専に入学して、１年が過ぎようとしています。この１年間、15歳にして親元を離れて、寮に入り共同生活を行い、進度の速い高専での勉強をこなしてきました。スポーツやロボコン、プログラミングなど、部活動や委員会活動など興味ある分野で競い合ってきた人も、多くいますね。

みなさんには「学業」と「スマホの取り扱い」について、たびたび話してきました。高専での勉強は進度が速く、時に高度で、教科書に載らない内容も扱い、学科専門の科目があり、高校での勉強とも一線を画します。当然、中学までの勉強方法のままでは対応は不可能です。この１年で勉強した内容、しっかり身についていますか？授業の内容を自分でいかに理解し昇華させていくかが大切です。授業から自分で学習を進めていくことができなければ、来年度からの４年間の学業は、単位修得が最低限にして最大の目標となってしまうような、追い込まれるだけの苦しい日々になっていくでしょう。

スマホとのつきあい方は、生活や学業に大きく影響します。スマホは、上手く使えば極めて有効なデバイスですが、ゲームや動画視聴、SNSなど、時間と集中力を奪い依存性のあるコンテンツにいつでも自由に触れられる環境で、自制していくことが大切です。高専ではスマホは禁止されていませんが、それはみなさんが節度を持ってスマホを扱っていけるかどうか、試されているということです。影響は自分自身以外にも及びます。就職説明で高専に見える企業の方々に、ゲームに熱中して周囲が見えず挨拶もろくにできない学生は、どのように映るでしょうか？

厳しいこと書きましたが、楽しいことのほうがはるかに多かった濃密な１年でしたね。高専ならではの同類の友人も多くできたことと思います。揺るぎない向上心、たゆまず育てていきたいですね。入学したときに抱いていた、希望や憧れに満ちた純粋な気持ちとまなざし、かたちは変わっても、ずっとなくさないでいてほしいなと、思います。



第２学年主任より

第２学年主任
総合科学科
１組担任
山本 寛

こんにちは。2019年度２年主任の山本です。2019年度も残りわずかとなりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。数年前に学年主任をしたときもこの書き出しです。すみません。文章を考えるのは大の苦手ですが、コピー＆ペーストは得意です。

本年度は、体育祭が、従来からある「スポーツフェスタ」の一つとして4/26（金）に行われました。スポーツフェスタは、4月以外にも７月24日（水）と、10月30日（水）の二回行われました。２年生も含めて、良い汗を流せたのではないでしょうか。

2019年度高専祭には、沢山の皆様にご来場頂きました。誠に有り難うございました。２年生のクラスの出し物は、

２年１組：カジノ
２年２組：屋台（タピオカ、ポテト＆からあげ）
２年３組：縁日
２年４組：屋台（タピオカ、ホットケーキなど）

でした。どうも２年生は、タピオカを売りたかったようですね。完売してなによりです。私は高専祭では、全ての屋台をまわる事にしているのですが、今年はタピオカを食べ過ぎました。

毎回宣伝していますが、高専祭では、学生、教員で有志のグループを作って、ピロティーで演奏しています。動画共有サイトYoutubeにて「沖縄高専」をキーワードに検索すると、高専祭の模様を撮影した動画がいくつかヒットします。どうぞご覧下さい。

この文章が書かれたまさにその日、2020年１月15日（水）の２年某クラスLHR（ロングホームルーム）では、新年会（学芸会）が開かれました。クラスメイトによる愉快な弾き語りで、楽しいひとときを過ごしました。

さて、楽しいことばかりではなく、非常に宜しくないご報告もあります。私は本年度、２年生の微積分Ⅰという４単位もある科目を担当していますが、成績が例年に比べて一段と宜しくありません。このままでは大変なことになってしまいます。「微積分Ⅰの成績、やばいかも？」と思う学生が、全員、冬休みの課題を提出してくれることを切に願っています。

それではみなさん、さようなら。



新年会（学芸会）の様子



第３学年主任より

第３学年主任
機械システム工学科
第３学年担任
武村 史朗

機械システム工学科　武村史朗です。今年度の第３学年の様子をご紹介します。高専生活の折り返し地点となります。学生生活には慣れもあるかと思いますが、３年生は専門学科別クラスとなり、専門科目が増えました。進級要件は一番厳しい学年です。３年生にとって、この一年は学習環境の変化を感じ、より高度な専門技術を修得する一年であったと思います。

３年生の大きな行事として、研修旅行があります。機械システム工学科・メディア情報工学科・生物資源工学科は関東方面、情報通信システム工学科は台湾へと行き、学科ごとに工場・企業見学等、グループ単位での施設見学等を行う自主研修を行ってきました。学生たちにとっても友人との友好を深め、良き思い出となりました。また、４年次に行うインターンシップや就職活動・進学活動への刺激になったことと思います。

インターンシップに向けて、この１月初旬に履歴書（エントリーシート）の書き方セミナーを行いました。本校で行われる業界研究会にも積極的な参加を促していきます。自分たちが学んでいる技術がどのように社会に役立つのか、を企業の方の話を聞くことで、面白さに気づき、目の色が変わったように感じられる学生もいます。就職や進路について学生は考え、悩む時期になります。各ご家庭でも、学生と将来について話し合いの機会を設けていただきますようお願いいたします。我々教職員も学生たちの成長の一助となるよう、取り組んでまいります。保護者様におかれましても、ご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

集合写真は機械３年 ANA 格納庫見学時のものです。



図.　13 期生の研修旅行における ANA 整備場の見学の様子



第４学年主任より

第４学年主任
情報通信システム工学科
第４学年担任
相川 洋平

４年生は高専において最も重要な学年です。就職するにせよ進学するにせよ、ここでの１年をどう使ったが後のキャリアに影響します。もちろん、実際に進路が決まるのは５年になってからです。しかし、４年の時点からしっかりと助走をつけておくことで、目標とするキャリアへ向けて飛び立つことができます。

沖縄高専では、４年時に、職務体験としてインターンを必修科目として設けています。８月までの準備期間を経て９月に実習が行われます。ここで、多くの学生が自身のキャリアと初めて向き合うことになります。また、12 月には大規模な業界研究会が開催されます。この辺りから、学生は進路選択を人生イベントとして実感していくようです。その後、年明け以降に本格的なキャリア活動が開始されます。

学生のキャリア活動を間近でみていると、私自身の高専時代が思い返されます。15 年も前になりますが、時勢なのか学生の気質なのか、当時と今とではキャリアに対する考え方が幾分異なる印象を受けます。当時は、社会で求められる能力は高専よりも高く、ギャップを埋めるために「進学」を選択する学生が多く存在しました。一方で、現在では、高専も社会で通用するという気運が強く、早期に実践的な経験を積むために「就職」を選択する学生が増えてきています。彼ら彼女らは、自身のキャリアが１つの組織で閉じるとは考えていないように見受けられます。職場が変わることを前提に、社会の中で自分の価値を向上させていくにはどうしたら良いか、模索しているように思われます。

変化が激しく、無駄が省かれる時代になりました。反面、組織や年齢・性別による壁は低くなった印象を受けます。高専生にとってどちらが良いのかはわかりませんが、果敢に挑む学生を支えられる沖縄高専でありたいと考えています。

修了生へ贈る言葉



専攻科長　谷藤 正一

専攻科は、本科の５年間の専門基礎教育課程の上に、更に２年間の専門技術教育を行うための少数精鋭の教育課程です。この僅か２年間の間に、これまで学んだ知識を総合し、問題解決ができることが求められます。目的・目標に向かって、日々試行錯誤の繰り返しです。深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も吸収して、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身に付けた技術者・研究者になってもらいたいものです。

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。本科も含めた高専生活の７年間、様々な技術や情報を利用して、社会の要求や課題を解決できる能力や、やるべきことのスケジュールや進捗管理などのプロジェクト遂行能力、そしてチームで活動できる能力も磨かれたものと願ってやみません。皆さんが手にしているディプロマは、決して飾りではないはずです。同じ校舎、同じ先生なのに、要求されるレベルが格段に高くなったことも納得できるのではないかと思います。もちろん、これで学びの時間は終った訳ではなく、まだまだ始まったばかりです！一つの課題をクリアする毎に、また次の更に大きくなった課題に直面するはずです。これからの勉強も、単に知識の詰め込みではありません。継続できる習慣は、自分自身をコントロールできる自己管理能力にも繋がります。目標を持って、自分を正しくコントロールするための良い練習と言えるでしょう。立ちはだかる難関な問題にも果敢に挑戦していってください。最後に、恩師の Mohammad Madihian 先生の言葉を贈ります。Read more, Do more, Learn more!　Diligence brings intelligence!!　皆さんの更なる飛躍に期待します。　・・・ー・

後援会会長挨拶



沖縄工業高等専門学校後援会

会長　崎山 敏雅



浦添支部総会



R1.12 月　進路決定物語発表者

今春、めでたく沖縄高専を卒業ならびに修了される学生の皆様、そしてこれまで彼らを物心両面で支えてこられた保護者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

時の流れは早く、緊張に包まれながら沖縄高専に入学した日がついこの前のことのように思い出される方もいらっしゃることと存じます。入学以来、先生方の親身なご指導とクラスや寮の友人たちとの切磋琢磨のお陰で、学生たちは逞しく頼もしく成長して巣立ちの日を迎えました。沖縄高専で勉強や研究に専心した人、課外活動でその能力を発揮した人、学生会や寮生会で組織運営やコミュニケーション能力を培った人など、学生一人ひとりが自分らしく高専生活を謳歌してきたことと思います。

若干 15 歳の子どもが夢を叶えるために住み慣れた環境を離れて、未知の環境で新しく人間関係を構築しながら将来の進路を自力で切り開く方法と技能を身につける場所として、沖縄高専と学生寮は最適だったのではないでしょうか。全ての学生たちにとってそこが快適な空間だったとは申しませんが、少なくとも企業に求められる技術者になるために、そして今よりももっと厳しい大人の社会に飛び込むための自己研鑽を積む機会を十分に得られたと思います。

一方で、私たち保護者は、離れて暮らす子どもたちを期待と心配と時々ワジワジーしながら、彼らの可能性と成長に一喜一憂しながら今日まで見守ってきました。私は沖縄高専後援会の支部理事をさせて頂くことでたくさんの保護者の方々のお話しや体験を聞くことができました。また、理事会を通して子どもをご指導くださる学校の先生方と直接お話ししたりする機会に恵まれました。そのお陰で、子どもの学校での努力やそれを先生方がちゃんと評価してくださっていることを知ることができ、不要な心配や疑問の解消に大いに役立っております。

平成から令和に変わった本年度も後援会は学生たちの課外活動や教育・研究事業・進路指導を支援して参りました。そして多くの学生たちがそれに応えて輝かしい実績を残してくれました。これもひとえに会員の皆様の深いご理解と長きに亘るご協力があってこそと、厚く御礼申し上げます。

今後とも引き続き、沖縄高専とその学生たちの活動・活躍に関心・期待をもって頂き、後援会にもご理解ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



R1.5 月　南部支部総会
失敗しない高専ライフについて



R1.6 月　総会



R1.6 月　総会後懇親会



R1.12 月　進路決定物語

修了にあたって

専攻科２年



機械システム工学コース

川満 悠里

沖縄本島から東に約 400 キロ。私は中学校卒業までの 15 年間を南大東島で過ごしました。元々、機械系に興味があったことや、兄弟が進学していることなどを理由に、沖縄高専に進学することを決意しました。入学してからは島でののんびりとした生活から、勉強に追われる日々に変わり、最初は皆についていくのに必死でした。また、これは沖縄高専のほとんどの学生に言えることだと思いますが、入学当初は同じ地元や知り合いの学生などが非常に少なく、また私の場合はそういった人が誰もいなかったため、最初の何日間くらいは寂しい思いもしました。しかし、周りの同級生にも恵まれ、親しくしてもらい、学生生活にも慣れていきました。また、高専入学と同時に入部した硬式野球部では日々の練習や試合など、約３年間の部活動生活を通して部員とのかけがえのない日々を送ることが出来ました。この部活動で、一生懸命がむしゃらに取り組むことの大切さや、目標をたててそれを達成するまでには何をするべきか、など色々なことに対して考える力なども身についたと思います。部活動中の選択や行動などについて後悔することも多々ありましたが、これからの人生に役立つ大切なことをこの部活動を通して学ぶことが出来たと思います。勉強については、３年生頃から機械系の専門教科を学び始め、学習のレベルが上がり始めました。さらに提出しなければいけない課題やレポートが多く、非常に苦労した記憶があります。そういった時に、先輩や同級生、友達が助けてくれて、テスト前などには朝まで一緒に勉強をした懐かしい思い出もあります。

私は本科を卒業した後、専攻科に進学し、そして来年４月からは沖縄県の会社で働きます。これまで学んできた専門分野の知識に加えて、学生生活を通して人間的に成長した部分を生かして、社会で活躍できるように頑張っていきたいと思います。

最後に、これまで様々なことを教えてくれた先生方、そして多くの場面で助けてくれた友達や先輩方、両親に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



電子通信システム工学コース

宮城 祥吾

私が沖縄高専を初めて知ったのは小学６年生の頃でした。学校とは思えないほどカッコいい建物が山原の大自然に囲まれていて胸が躍ったのを覚えています。中学３年の高専受験、本科１年の初めての講義、寮生活、クラブ活動、今でも鮮明に思い出せるのに、もう随分経っていました。今では、入学した頃憧れた７つも上の知性的な大先輩と同じ学年となり、ついには卒業を迎えます。ここまで思い返すと非常に早いものでしたが、特に専攻科での時間はあっという間で、目前の進学活動、研究発表、課題等に追われているうちに修了が近づいていました。

充実した学生生活が送れたのは研究室の先生をはじめとする教員の方々、事務員の方々、卒業し各地で活躍している先輩方、共に過ごしてきた同級生、頼もしい後輩達に支えられたおかげです。本当にありがとうございました。

私は４月から大学院へと進学します。まだまだ未熟なところも多く、新たな環境での勉強は少し不安もありますが、これまで沖縄高専で培った知識と経験、根性があるので何事も乗り越えられると思います。卒業するのはとても寂しいですが、この学校を選んでよかったなと感じています。長い間、大変お世話になりました。



情報工学コース

金城 海姫

沖縄高専に入学した 15 歳の春。あれから７年が経った今、長いようで短かった高専生活が終わろうとしています。小さな離島の中学校出身だった私は、憧れだった沖縄高専に入学することができ、きれいで都会的な校舎や最先端の技術を学ぶための設備に当時非常に興奮したことを覚えています。しかし、夢にまで見た高専生活は、楽しいことばかりではありませんでした。スピードや難易度が徐々に上がっていく講義への焦り、島の家族と離れて暮らす寮生活・一人暮らしへのストレス、進学・就職活動などの自分の将来に関する不安など、常にたくさんの悩み事を抱えていました。特に５年次に取り組んだ卒業研究と専攻科１、２年次に取り組んだ特別研究においては、非常に苦しい状況が何度も何度もありました。そんなとき私を支えてくれたのは、同学科・同研究室の友人たちと、研究室の担当教員です。研究計画を立て先行研究を探し、手法を練り実装し考察する、という初めての経験にはじめは戸惑いましたが、教授からたくさんのアドバイスを頂き、友人たちと切磋琢磨しながら、何とか研究を形にすることができました。３年間の研究生活を通じて、研究分野に関する知識や物事を論理的に分析する能力のみならず、失敗しても諦めず最後までやり遂げる粘り強さを身に着けることができたと考えています。

専攻科修了後は内定をいただいた東京の企業へ就職し、４月からは社会人としての新しい毎日が始まります。生まれ育った沖縄を離れ、新たな土地で働き暮らしていくことへの不安もありますが、これまでに沖縄高専で学んだ知識や技術を生かし、自らの力で新たな未来を切り拓いていくことへの期待と興奮のほうが大きいです。

沖縄高専で過ごした７年間の日々は、私の人生における大切な財産です。長い学生生活を一緒に過ごしてきた友人たち、じゃじゃ馬だった私にも熱心に指導してくださった担当教員をはじめとする先生方、そして７年間私のやりたいことを応援し支え続けてくれた家族に、心から感謝申し上げます。また、後輩の皆様の更なるご活躍と、沖縄高専のさらなる発展を祈念致します。



生物資源工学コース

生物資源工学コース一同

専攻科を卒業する私たちは、７年というとても短い時間を沖縄高専で過ごしてきました。私達の代の生物コース生は丁度７人いるので、１人１年ずつ学校生活を振り返り、修了にあたってのコメントとさせていただきます。

入学して一年目では、学科混合クラスで多くの友人に会うことができました。技術者の基礎となる報告書の書き方や論理的な考え方を重点的に学ぶことができ、私の大きな支えとなっています（儀武滉大）。

本科２年生では、私は部活動に打ち込んでいました。授業が終わるとユニフォームに着替えて、駆け足でグラウンドまで走ったことを覚えています。寮でも部員と顔を合わせて、部活のことを話しながら泥だらけのユニフォームを手洗いしていたことが、私の思い出です（内里開）。

本科３年生は試験科目とレポートの多さに目を回した覚えがあります。オープンキャンパスの実験リーダーを任された前期は特に大変でしたが、今となっては得難い成功体験でした。同級生達も各々の忙しさを経て活躍し、学級全体で成長し始めたあの頃を思うと、非常に感慨深いです（上里佳寿葉）。

本科４年生で一番印象に残っているのは「インターンシップ」です。私は、沖縄県内の企業でインターンシップを行いました。色々な業務をさせていただき、貴重な体験となりました。進路に悩んでいる人は、企業と大学の両方でインターンシップを行ってみたらいいと思います（仲村知華）。

本科５年生では、初めて自身の研究テーマを持ち、研究の大変さや自身の勉強不足を痛感しました。それでも、研究室の先輩たちに追いつくため頑張りました。後輩へ、尊敬できる人を見つけること。実験に少しずつ工夫を凝らしてみると研究がより面白くなるかもしれません（大城翔平）。

専攻科１年生では、より発展的な講義と実習が増え、他コースの学生と合同でオープンキャンパスにおける体験教室を企画しました。高専と科学の魅力を伝えるために何をすれば良いのか何時間も話し合った結果、参加した小中学生だけでなく保護者からも良いコメントを頂き嬉しかったです（島袋礼華）。

沖縄高専に入学してから早７年が経ちました。専攻科２年では、無事第一志望の大学院に合格を頂き、特別研究でも納得のいくデータを出すことが出来ました。改めて振り返ってみると、高専生活最後の年に相応しくとても充実し、また自身を成長させることができた１年でした（宮城愛夏）。最後に、ご指導頂いた先生方、充実した高専生活を支えてくださった友人・家族に、心から御礼申し上げます。そしてこれからも高専生活を送っていく後輩の皆さんの今後を応援しています。

学生主事あいさつ



学生主事
比嘉 吉一

日頃より本校の学生指導・課外活動へのご理解・ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。学生の厚生補導に関する諸問題に直面・対応する立場から、現在、気になっている２点の学生行動について、家庭・学校での協働による厚生補導を行う目的から、情報共有をさせていただきます。

１点目は、スマートフォン、タブレット等の「情報通信端末」の利用方法についてです。「ながら・・・」についての注意喚起は、高専だより第 25 号（平成 30 年９月発行）にて行っておりますので、今回は「ネット依存」「スマホ依存」「ゲーム依存」に関連した問題について情報共有します。在学生諸君には、入学時のガイダンスにおいて「学生生活のてびき」を用いて、本校内に「ゲーム等の勉学に関連しないものの持込禁止」を指導しているところです。また、本業である勉学のみならず食事・睡眠等の日常生活をも蝕む上記の「〇〇〇依存症」に関する危険性や恐怖についても重ねて指導しているところです。しかしながら、現状では一人一台の運用をしているスマートフォンやタブレット端末にて SNS や動画サイト、オンラインゲーム等に興じている学生が散見されます。平成 30 年７月 20 日に一部改正が行われました「沖縄県青少年保護育成条例」では、インターネットの利用に関する保護者の責務が明文化され、「保護者は、インターネットの利用に伴う危険性、過度の利用による弊害等を認識し、その保護する青少年に対し、インターネットを適切に活用するために必要な教育を行うとともに、当該青少年のインターネットの利用を適切に管理するように努めなければならない」としています（下線は筆者による）。また、使用者が 18 歳未満の場合は、「インターネット上の危険性やトラブルから守るため、フィルタリング（有害情報の閲覧制限、利用時間の制限、SNS 等アプリケーションの利用制限）を設定する」ことが求められています。学生が利用している情報通信端末を「一方的に取り上げる」「制限する」は学生ー保護者間でのトラブルの原因となることを踏まえつつ、まずは、お子さまの情報通信端末の利用状況（情報量、アクセス時間など）について情報収集をしていただきたいと思います。そして、契約者である保護者の責務として、学生本人ー保護者との間で情報通信端末の利用方法について、明確なルール策定をお願いいたします。

２点目は、コミュニケーションの導入として不可欠な「あいさつ」についてです。学生から積極的なあいさつがあり、こちらも気持ちよくあいさつができている日常を過ごしているところですが、残念ながら、私からの声がけ（あいさつ）に対して、「おはよぅっす」「ちわっ」とか「ちぃーっす」といったおざなりなあいさつが最近目立っています。また、中には返答もしない極めて非礼な学生が居ることに驚いているところです。筆者の性格上、本校の学生について厳しい見方をしているかも知れませんが、他高専への出張の折、先方の学生さんに出会うたびに、本校学生のあいさつに対する積極性が少し欠けているような印象を受けているところです。話し方マナーコミュニケーション講師である金森たかこ氏の著書、「入社１年目　人前であがらずに話す教科書」（プレジデント社）によれば、「あいさつ（挨拶）」とは「挨」＝心を開く＋「拶」＝相手に近づくことであり、「あいさつ」がコミュニケーションの導入として必要不可欠な手段であることを示しています。４年次開設科目であるインターンシップでは、基本的なビジネスマナーについてもインプットがありますが、常日頃から習慣となっていない「あいさつ」は、とっさの場面では出ないものです。ご家庭におかれましても「あいさつ」の重要性についてお話しいただき、気持ち良い「あいさつ」が日常となるようご指導いただけますよう宜しくお願いいたします。

寮務主事あいさつ



寮務主事
金城 伊智子

保護者の皆様には日頃より学生寮へのご理解、ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本年度は 16 期生となる新１年生 157 名、３年次編入の留学生２名の新入生を迎え、４月から総勢 554 名での寮生活が始まり、もうすぐ１年が経とうとしています。１年生の皆さんにとっては新たな出会い、新たな生活の始まりの１年だったと思います。初めての共同生活は分からないことも多く、不安もあったかと思いますが、先輩や友人達と助け合いながら寮生活を送ってきたことでしょう。これからはその経験を活かして、入ってくる後輩達をサポートし、彼らの不安を解消する手助けをすることによって自らも成長していってほしいと考えています。２年生以上の皆さんには寮生会の役員や委員として、また活動に積極的に参加して皆さん自身で寮生活をより良くするための行動をしてほしいと考えています。今年度、寮生会役員会は様々な取組みを提案する等、積極的に活動をしてくれていました。取組みの中には他の人達との協同作業を必要とするものもあり、難しいと感じることもあったかもしれません。そして、そう感じた時に皆さんにやってほしいことは、前向きな意見を挙げることです。誰かが挙げた意見を否定することは簡単です。しかし、否定することで問題は解決できるでしょうか。寮生会がやろうとしている取組みは、学生寮の課題を解決したいという気持ちの表れです。寮生の皆さんにとって気持ち良く過ごしてもらえるような寮にしたいという願いです。そこで、寮生の皆さんがもし実行することが難しいと感じる案が挙げられた場合には、その案を否定するのではなく、改善案を挙げてほしいと考えています。そして、それを何回か繰り返すことによって、皆さんにはただ否定するのではなく、改善策を挙げられるような力を付けてほしいと思っています。ルールを守れない人達がルールを無くそうと言ったところで、周囲の人達が迷惑を被ることは明白であるため、ルールを無くすことは難しいのです。まずルールを守ることから始め、その後必要の無くなったルールを無くしていこうと頑張っている人達に協力することから始めませんか。そして、寮生会役員会を中心とした寮生皆さんの力を合わせ、過ごしやすい寮を創り上げていってほしいと願っています。また、寮生の生活には保護者の皆様と学校の綿密な連携が必要です。保護者の皆様におかれましては、学校、寮へのご支援、ご協力およびご助言をよろしくお願い申し上げます。

寮生会より

学生会より

令和元年度学生会長を務めて参りました、メディア情報工学科４年の真志喜蒼麻です。今年度の学生会は毎年行われている七夕イベント、校内清掃やスポーツフェスタだけではなく、学生会内の結束と意識向上を目的としたリーダー研修、首里城の復興支援へ向けて九州地区の高専キャンパスと協力して募金活動を行いました。募金に協力してくれた学生、教職員、保護者の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。有り難うございました。

今年度の学生会は学生会内の団結を図ることにより、イベントや学生会運営の質を向上し学生の皆さんが楽しむことが出来るよう努力して参りました。また、12月から来年度学生会を引っ張っていく次年度の学生会長をはじめ各局長、委員長たちに引継ぎを始めております。来年度からの学生会は今年よりもっとより良いものになると確信していますので、どうか温かい目で見守っていただきたいです。

会長として力不足な点が多々あったと思いますが、学生主事の比嘉先生をはじめ多くの方に支えていただいたおかげで大きく成長できた１年になりました。来年度も学生会を宜しくお願い致します。



令和元年度学生会長
メディア情報工学科４年
真志喜 蒼麻



男子寮長

情報通信システム工学科３年
久場　悠誠

令和元年度男子寮長を務めております３年情報通信システム工学科の久場悠誠です。

男子寮長として活動してきて１年が過ぎようとしています。これまでの寮生会の活動として、４月に新入生対象の懇談会を行いました。

また、今年は昨年までになかったことに挑戦してみようと考え、４月に新入生同士の仲を深めてもらうために１年生を対象とした遠足を行いました。残念ながら天候に恵まれず、会場に到着してすぐ寮に引き返すことになってしまいました。少ない時間でしたが１年生同士の仲を深めることができたいい企画になりました。

そして、寮生の皆さんの意見を第一に考え、寮生アンケートを実施し、購入してほしい物品や修理してほしい施設の調査、購入・修理を行いました。

今年度は学生寮設立から15年が経ち備品・設備の経年劣化や破損が多くなっており、それらの修繕費用として同窓会の皆様から寄附金をいただきました。その頂いた寄附金を使用し寮生の皆さんが暮らしやすく充実した寮生活にしていきたいと思います。

来年度以降も寮をよりよいものにしていけるように、寮生会一同力を合わせて頑張っていきますので、これからも沖縄高専学生寮をよろしくお願いします。



女子寮長

情報通信システム工学科３年
伊藤　咲

こんにちは。前年度に引き続き女子寮長を務めさせていただいた、３年情報通信システム工学科の伊藤咲です。

今年度、執行部では他高専視察として高知高専さんとの意見交換を行いました。沖縄高専にも取り入れることができそうなことがあれば取り入れ、より良くしていきたいと思います。

また、１年生歓迎遠足や夏の涼祭など新しいイベントを開催しました。

今年度の各委員会の主な活動として整美委員会では普段の清掃チェックや指導、月例清掃や学期末清掃の指導などを行いました。企画広報委員会では半期に１回の寮祭や清掃時の曲決め、オープンキャンパスでの寮内案内などを行いました。保健衛生委員会では毎週の寝具リースの交換や、寮食アンケートなどを行いました。保安委員会では避難訓練の実施や調理器具等のチェックを行いました。

イベントを行う際や寮生会の活動に協力していただいた寮務主事の金城先生や学生寮委員会委員の先生方、寮務係の方、寮生のおかげで１年間運営を行うことができました。この場を借りて感謝申し上げます。

高専祭





高専祭実行委員長
岡野 祥希

今年度、高専祭実行委員長を務めさせていただきました、生物資源工学科４年の岡野祥希です。
今年度の高専祭は 10 月 26 日～ 27 日の２日間で開催され、劇・縁日・屋台・映像作品・お化け屋敷のクラス企画やライブ・ダンスなどのイベントで学生や来場者の皆様とみんなで盛り上がり大成功しました！

今回で 15 回目となる高専祭では「お菓子」をモチーフとした構内の装飾を始め、実行委員主催の「高専神社」、「コピーユニットダンス大会」、「スマブラ（対戦型アクションゲーム）大会」などのイベントを敷地内を最大限に活用し、学生はもちろんのこと来場者の方々に楽しんでいただけるよう力を尽くしました。「高専らしくを新しく」というテーマのもと、これまでの高専祭より高専らしさを前面に出すような高専祭にしました。今回は初めての試みとしてコスプレをした人にはクオリティに応じて得点を加算し、多くの学生にコスプレをして頂いたおかげで来場者の皆様にも楽しんでもらえたと思います。

また、高専祭のホームページや SNS アカウントを開設し、高専祭のプログラムや当日の様子などをリアルタイムで周知することで集客に役立てることができました。

私たち実行委員は「最高に楽しい高専祭」を目標にしてきましたが、最高に楽しいを実現するため試行錯誤を繰り返す日々が続きとても大変でした。しかし、学生の皆さんや協賛いただいたスポンサーの皆様、学生主事をはじめとする先生方、事務の皆様のご協力により無事最高に楽しい高専祭を作り上げることができました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

そして、最後に第 15 回高専祭開催にあたり、最後まで実行委員長である私を支え、共に高専祭を運営してくれた、書記、副実行委員長、各局長、局員の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました。来年度も、自慢の後輩達が『最高の高専祭』にしてくれますので、ぜひ周りの方を誘ってお越しください！

ロボット製作委員会



ロボット製作委員会 部長
（委員長）
機械システム工学科３年
兼久 勇斗

ロボット製作委員会　部長（委員長）の兼久勇斗です。

私たちロボット製作委員会では、毎年 NHK 主催の高専ロボコンに向けてロボット製作を行っています。

色々な学生と協力してどのようなロボットを製作するかアイディアを出し合い、持ち前の技術力でロボット製作を実現するために日ごろから頑張っています。

今回（高専ロボコン 2019）の競技は「らん♪ RUN Laundry（らん・ラン・ランドリー）」といってＴシャツ、バスタオル、シーツをフィールドに設置された物干し竿にロボットが干すという競技でした。

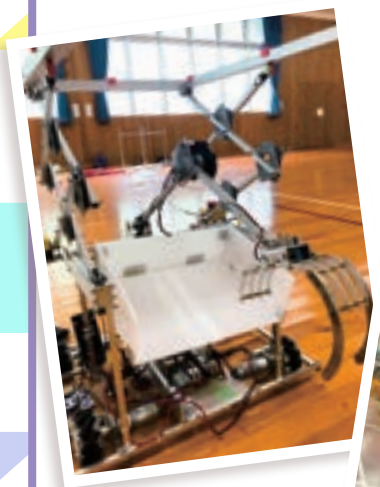
沖縄高専ロボット製作委員会からはＡチームとＢチームの２チームが九州沖縄地区大会に出場しました。

結果は、Ａチームがベスト４で技術賞を頂き、Ｂチームが特別賞（東京エレクトロン株式会社）という成績を残しました。

全国大会出場はできませんでしたが年々と成績が上がってきています。

来年こそは、全国大会出場を目指し頑張っていきたいと思います。

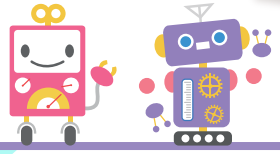
ものづくりがしたい、ロボットの設計がしたい、ロボットを制御したい等、ものづくりやロボットに興味がある皆さん、沖縄高専ロボット製作委員会で待っています。













キャリア教育センター長

津村 卓也

キャリア教育センターは、学生のキャリア形成のための教育と学生や卒業生の進路決定活動の支援を目的として、キャリア教育プランに則って各学年に対応したキャリア教育と進路支援を行なっております。

１～２学年では、ワークショプ・講演会・講話などを通して、自立・自律の姿勢を身につけるとともに、自己と社会との関わりについて考える機会を持ちます。３～４学年では、コミュニケーション研修・履歴書の書き方講座・研修旅行での企業見学・企業技術者講演会・自己分析講座などを通して、各学科の専門性を意識した実践的な知識を習得し、将来計画に基づいた具体的な行動方針を決める機会を持ちます。またインターンシップでは、ビジネスマナー講習・メイクアップセミナーなどを受講し、夏季休業期間に企業などで就業体験をすることで、社会で期待される人材像の理解を深め、また社会人マナーを理解し実践する機会を持ちます。５学年および専攻科では、企業による業界研究会、企業説明会や大学による進学説明会を通して、これまでのキャリア教育内容を活かし自ら進路を決定していきます。

また、学生の疑問や相談への対応・個別の採用面接練習・エントリーシートの記入内容指導などを行う相談窓口を、キャリアアドバイザーが週二回、県キャリアセンター員が月二回の担当でキャリア教育センター室に設けております。この相談窓口は、本校卒業生や保護者からの相談も受け付けております。

これらの活動は、単に進路を決定するための情報提供・支援だけでなく、自分自身を分析して理解し、社会を知り、業界・業種・職種などを理解したうえで将来どのような道に進みたいのかを考え、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養うことを目的としています。また、教職員だけでなく多くの企業・団体の方や卒業生などにもご協力を頂きながら行なっております。

就職・進学に向けた活動状況報告



機械システム工学コース ２年

小橋川 翔大

私は、栃木県大田原市にあるキヤノンメディカルシステムズ株式会社（以下 CMSC）に内定を頂きました。この会社は、CT や MRI などの画像システムやヘルスケア IT システム、体外診断装置などのハードウェア・ソフトウェアなどの設計・開発・整備を行っており、私はサービス企画・テクニカルサポート部門のなかで、カスタマーエンジニアとして採用されました。その内定までに至る、自身の過程を本科から振り返りますので、これから就職や進学する後輩の参考にもなればと思います。

高専では、早ければ本科４年の後半から就職活動が始まります。周りの友人や同期が内定を貰ったり、就職活動を進めているなか、何もしていない自分にとても焦っていました。学校が開催してくれている業界研究会でも就職したいなと思う企業を見つけられなかったため、就職する熱意が無かったのも大きかったのかもしれません。進学しようにもやりたいなと思うことが無かったので決められずにいました。これを見ている本科４年生・専攻科１年生にも、同じ状況で不安な気持ちでいっぱいの方もいると思います。その状況のまま５年に上がり、どうしようかなと思っている際に、研究室の担当教員の先生から専攻科になったら県外に研究発表をやりに行くということを聞いて、そういう経験もしてみたいなと思い専攻科への進学を決めました。

専攻科では主に実験や発表などの活動をすることができました。専攻科２年になり再度就職活動の期間になった際に、自身の研究テーマでもあった機械の整備をする職業に勤めたいという気持ちがありました。そのときにちょうど訪問していた CMSC の企業説明会に飛び入りで参加することにしました。説明を聞いて自分がやりたいと思っていた職業だったのと、元々調べていて興味を持っていた企業だったのもあり、説明に来ていた CMSC の人事の方にその場で面接を行いたいということを伝えました。面接日時も近く、急な相談だったので驚かれましたが今となっては勇気を出して良かったと思います。面接も専攻科でやってきたこと、志望理由を堂々と伝えられ、無事内定を頂くことができました。

これから、就職の際にやりたいことが無くて悩んでいる方は、急がずにじっくりやりたいことを見つけ出す期間を設けるのも良いのかもしれません。今から就職する私もそうですが、将来に不安を持っても諦めずに最後まで頑張りましょう！



情報工学コース ２年

知念 響紀

私は奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）へ進学しました。かつて、私は進路を決めるにあたって自分が何をしたいのか分からないために志望先を見つけられずにいました。

こんな人にならないためにも、低学年の人は趣味を増やしておくといいです。趣味は自分の強みになります。自己紹介で堂々と紹介できるくらいの趣味をいくつか作っておくと得します。高学年で私と同じように進路で悩んでいる人は、インターンシップやオープンキャンパスに積極的に参加するといいです。これらは参加するだけで自分がどの分野に興味があるのか、その分野に進むためには何を学ぶべきなのかを効率よく知ることができます。私は様々な大学のオープンキャンパスに参加する中で、自分の興味のある分野がコンピュータビジョンであることを確信し、最終的に NAIST を志望しました。

また、就職・進学活動では早めに行動したほうがいいです。あと３回くらい TOEIC が受けられると思って油断していたら沖縄ではあと１回しか受けられなかったなんてことがあります。ちなみに NAIST は４月に書類提出があるので NAIST 志望の人は特に気を付けましょう。

以上の情報が皆さんのこれからの就職・進学活動の参考になれば幸いです。



機械システム工学科 ５年

宮城 史門

私は、進路として進学を選択し、進学先は東京農工大学に決定しました。理由は、沖縄高専で機械システム工学を学んでいくにあたって、ロボット制御や自動車の最新技術に興味を持ち、もっと学びたいと思ったからです。進学先を選択するにあたり、研究の内容、立地、就職率に重きを置きました。農工大学の研究にガス探知の研究があり、その探知は沖縄の不発弾の発見にも活かせるのではないかと興味を持ちました。進学にあたって、進学先を決定していなかった４年次は、英語の勉強を中心にしていました。私は、TOEIC を２、３年に受けた際に単語がほとんど分からなく読む気も起きなかったので、まず、単語量を増やそうと単語帳を一冊買い、それを丸々暗記するということをしました。それにより、４年終了時ごろには TOEIC で出てくる問題の文章もほとんど読めるようになっていました。しかし、次に読むスピードがとても遅かったので時間内に解ける問題が少ないという課題が出てきました。それは繰り返し問題を解くことにより少しは改善されました。４年時の途中からは数学も始め、ひたすら問題集を解いていました。始めは全て答えを見ないと解けなかったですが、何回も通していくうちに少しずつ解けるようになりました。５年次では、物理学と志望校の過去問を解いていました。物理学はそこまで範囲が広くはなかったので少ない期間でもカバーできました。また、TOEIC の受験もしました。TOEIC は、受験が定期的で、月に一回程度なので何回か受験した方がいいと思います。私は受け始めが遅く、結果的に１回しか受けれませんでした。私は、この受験勉強で得た忍耐力や英語力その他の知識はとても今後の生活に活きてくると考えています。これから進学を考える皆さんへ伝えたいことは、勉強は時間がかかるため早い段階で始めることと自分にあった研究室を慎重に選択することです。高専生活は、５年と長いように感じるかも知れませんが、今、５年近く過ごして、意外と早かったので、今ある時間を大切にして、いっぱい考えて自分が後悔しないように進路を決めてほしいと思います。



情報通信システム工学科 ５年

比嘉 祥吾

皆さんは就職活動が５年生から始まると思っていませんか？４年生になったら多くの企業説明会やインターンシップ、就職座談会、業界研究会などいろんな企業について知る機会ができます。また、企業によっては沖縄高専に対して説明会などを行っていないこともあり、自分なりにも調べていく必要もあります。

私はこれらの中でも就職座談会で社員から企業について直接話を聞くことができ、「AI 技術に力を入れている」、「海外転勤が気軽に可能」、「社員全体のやる気」などに直目し、株式会社ソフトバンクに応募を行い、４月頭に無事就職内定をいただくことができました。

株式会社ソフトバンクでは会社特有のエントリーシートを提出する必要がありました。そこでは大会・コンテストでの受賞経験や自分が行った研究内容、インターンシップ経験などを書く欄が多くあり、これらの経験がない場合ほとんど白色でエントリーシートを提出することになってしまいます。５年生になってしまうと就職活動や卒業研究で忙しくなってしまうため、時間に余裕がある時に色んなことに挑戦することをお勧めします。

しっかり業界研究を行い自分の行きたい企業を見つけ、その企業に確実に就職内定をいただけるよう事前準備に取り組んでみてください。



メディア情報工学科 ５年

島袋 滉希

５年生というのは、進路決定や卒業研究などやることが盛りだくさんなため、あっという間に時間が過ぎていきます。

なにも考えずに過ごしていると、いつのまにか周りの人に先を越されている、なんてことも珍しくありません。

特に５年生の最初の関門として立ちふさがる「就活」は５月～６月ごろに決められるかどうかが勝負の分かれ目、と言ってもいいほどに迅速な行動が求められてきます。

４年生の春休み、私はなるべく学校に行き、求人情報の確認や、教員からのアドバイスをもらうといった生活を送っていました。その結果、５月中旬には最終選考に合格し、就活を終えることができました。

就活を有利に進めるためには、「早期の行動」が非常に重要になってきます。当然のことですが、エントリーというのは自分が知っている企業にしかできません。極端な話、10 社知っている人と 100 社知っている人では選択肢が大きく異なってきます。そのため、早い段階から行動し、少しでも多くの情報を集めまくることが何よりも大事です。

まだ新５年生でない人も、面接では確実に学校生活について聞かれるので、自分の創作物を公開することや委員会に入って活動することを強くお勧めします。結果もそうですが一番大事なのは「経験」です。どんなことであれ自分から動けば、必ず自分の糧になってくれます。

就活や進学はどの学年でもいずれは迎えるものです。たくさん悩み、時には休憩もはさみながら、各々の大きな力になるような学生生活を送れるよう頑張ってください。



生物資源工学科 ５年

新垣 奈瑠瀬

私の就職活動は、４年生の夏休みに行われるインターンシップからすでに始まっていました。インターンシップ終了後、３月から募集が始まり、書類選考、１次面接、最終面接を経て私は希望していた企業から内定をもらうことができました。

就職活動をするにあたり後輩の皆さんに伝えたいことは、インターンシップを十分に活用することです。面接等の短い時間では分からないことを企業側に伝え知ってもらうことができ、実際に働いている方の声が聴けます。行きたい企業や学校がはっきりしている場合はインターシップで必ずそこに行きましょう。

私は高専入学の頃から、進学ではなく就職と自分の中で決めていました。しかし、後輩の皆さんにはどちらも視野に入れて考えてほしいと思います。やりたい事がはっきりしないうちに進学か就職か自分の将来を決めつけておくと、心変わりした際に選択肢が無くなってしまうからです。

思い返すと、よくあんなに頑張れたなと思うくらい自分を追い込んでいた時期でしたが、前に進めないときは、先生方や両親に話を聞いてみてください。１番身近で必ず味方になってくれる社会人がいることを忘れず、後悔しない選択が出来ることを祈っています。

インターンシップ体験記



機械システム工学科
當山 幸輝

私は夏休みの５日間、出光昭和シェル徳山事業所にインターンシップでお世話になりました。私が出光昭和シェルを選ばせていただいたのは、石油・エネルギー系の分野に興味があったことと、高専生を積極的に採用していることから１度現場を見てみたいと思ったからです。

出光昭和シェル徳山事業所は石油精製を行っておりませんが石油化学製品の生産および周南コンビナートへの原料供給を主として操業を行っている企業です。インターンシップでは１日目に現場見学を行った後に現場実習を４日間行いました。現場実習では、装置を運転する製油課、エチレン課などの各課で日ごろ行っている業務を実際に体験することが出来ました。例えば、配管が壊れていないか確かめるための非破壊試験を行ったり、配管の分解や組み立て、ストレーナーの清掃など様々なことを体験しました。実習を行ったすべての課を通して装置に対する膨大な知識とそれに伴う資格が多く必要であり、一番多い課だと必須の資格は４つあるところもありました。そこで学んだことは、１人では成果を出せないということです。１つの装置を動かすのにも何人もの人が関わっており、そこで１人が頑張ったところで装置を動かすことが出来ないし、１人がサボると大きな損失につながり、装置を動かす人全員がコミュニケーションを密に取りながら、責任感や使命感を持って仕事に臨んでいることを学びました。インターンシップ中は毎晩懇親会があり、社員の皆さんが口をそろえて「学生のうちに出来ることはしておいた方がいい」とおっしゃっているのを聞いて様々なことに挑戦していこうと思いました。

今回のインターンシップ通じて、コミュニケーション、自立心、原理原則への理解、挑戦意欲、使命感、安全確保など様々なことが必要だと思いました。それらは今の自分には足りないものが多いので、これからの学生生活で少しでも多く培うことが出来るように頑張りたいと思います。

最後にこれからインターンシップに参加する皆さんへ。インターンシップは業界研究会やホームページで知れること以上のことを学べます。この先の進路へ大きく影響することなので、情報収集をしっかり行い有意義なインターンシップとなるようにしてください。



機械システム工学科
香村 真衣

私は、夏休みに MROJapan 株式会社と株式会社 JAL エンジニアリングの２社でそれぞれ５日間のインターンシップに参加させていただきました。

１社目の MROJapan では、今年新しく那覇空港に出来た格納庫でドック整備士の仕事を体験しました。実際の整備作業の流れを見学したり、航空機の構造について教えていただきました。私は、航空技術者プログラムを履修しているので航空機の知識は少しありましたが、実際に見て学ぶことでより理解が深まりました。また、ドック整備はチームになって長い期間整備作業を行うため、安全に効率よく作業を進めるためにはコミュニケーショを多くとることが大切だということを感じました。

２社目の JAL エンジニアリングでは、羽田空港と成田空港で運航整備、機体点検整備、エンジン整備、装備品整備の４種類の整備を見学しました。４種類の整備の仕事を実際に体験することで共通点や違いを見つけることができ、調べただけではわからないところまで学ぶことが出来ました。また、安全ヒューマンエラーなどの説明を受け、航空整備士の安全に対する考えや心構えを教えていただきました。その他に、高専卒の社員の方とお話しする時間があり、高専を卒業して入社することのメリット・デメリットや整備士になるために必要なことなど様々な疑問に答えていただきました。

私は、運航整備士の仕事に興味があるため、MROJapan と JAL エンジニアリングのインターンシップに参加しました。２社参加したことで、航空整備士の仕事内容や資格など多くのことを学ぶことができ貴重な経験となりました。また、２社とも航空機整備の会社ですが、それぞれの特色があり、違いを知ることが出来ました。今回のインターンシップを通して得たことを今後の就職活動に活かしたいと思います。また、インターンシップではその企業について深く知ることが出来るので、これからインターンシップに参加する皆さんには、自分の将来やりたいことや目標からインターンシップ先を選んでほしいと思います。



情報通信システム工学科
親富祖 元希

私は夏休みの間に、A.L.I. Technologies（以下 ALI）とアドスタッフ博報堂という会社のインターンシップに参加しました。ALI は所謂ベンチャー企業ですが、片やアドスタッフ博報堂は沖縄県の広告会社です。

他の皆さんがインターンに参加した感想を書いていると思いますので、私はインターンを選ぶ際の考え方について書こうと思います。

率直に言って、インターン先で何を学べるか・吸収できるかは個人の技量に強く依存しますので、インターン先選びについて私が偉そうに言えることはほとんどありません。インターンシップについて学校から案内があるので、これを聞けば心配はないと思います。

ただ一つだけ、普段の生活で絶対に関わることのない業種の企業に行くことをおススメします。私の場合は、それが広告会社であるアドスタッフでした。

高専生は良くも悪くも色眼鏡で見られます。「高専生は〇〇くらいできるだろう」「高専生なのになんでウチに来たの？」など…。当然、科学技術に関係ない質問も平気で飛んでくる上に、先方に妙な難癖を付けられることもあるでしょう。そんな状況の中で「自分のやるべきこと」、「いかに成果を出すか」を考えることは、自分自身の「地力」を試す良い機会だと思います（生意気な若者に付き合って頂いたアドスタッフの皆様にお詫びと感謝を申し上げます）。

そんな企業に行ってみるのも「アリ」ではないでしょうか？



情報通信システム工学科
冷水 晴香

私は夏季休暇中の１週間、沖縄セルラー電話株式会社さんでインターンシップをさせていただきました。同世代は私を含め沖縄高専の３名しかおらず、他 40 人近くのインターン生は大学生でした。集合場所から年齢差に圧倒され「この１週間、大学生の中で大丈夫か？セルラーさんの期待を裏切ってしまうのではないか？」と不安になりました。また、夏期休暇後のインターン報告会で、周りの同級生たちは２社３社と多数企業を予定しており、１社のみの私は劣っているように映るのではないかとも思いました。

そんな諸々の不安も、初日のアイスブレイクで同じグループになった県外の理工学部生や、この業界とは真逆の文系大学生とコミュニケーションを取るうちに、高専で学んできた知識は大学生にも引けを取らないことが分かり、自信を持つことが出来ました。そして、考えもつかなかった視点からの意見に、いい緊張感と様々な事を吸収していこうと前向きな気持ちを持ちました。

配属先では、セルラーさんの精神、技術的向上心、ユーザーを不安にせない品質維持と改良に触れ、全てに「地元に全力！」のモットーが影響し、大切にされている事が強く伝わりました。昼食時間や見学で様々な部署の社員さんとお話させて頂きましたが、皆さんとても気さくで仕事に真摯な方でした。社員さんと同じものを目にして・話して・感じることで、社風はもちろん、この業界が求めている「人材」について気づき、考えるきっかけになりました。

冒頭で周囲との企業数による不安を挙げましたが、最終日、エントランスホールを出るころには忘れていました。「他の学生よりいい経験ができた」「勉強してきたことへの信頼感」が大きかったからです。

私は沖縄セルラーさんのインターンを通して、働くこと、なりたい自分のイメージが鮮明になりました。進路やインターンに不安を持っている後輩たちに、この文で不安が、安心や期待へと少しでも変われば嬉しいです。



メディア情報工学科
真嘉比 浩乃

私は夏休みの５日間、株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズのインターンシップに参加させていただきました。同社は主に Web を用いた事業を扱う会社です。

私は開発やキャリアについてのお話を伺ったり、Web アプリケーションを開発したりしました。また４日目には、「JAIPA Cloud Conference 2019」に参加しました。

インターンシップでは高専での知識や経験を業務に活かすことができました。カンファレンスでは、授業で習った通信の技術が実社会でどのように活用されるかの様子を知ることができ、非常に感銘を受けました。また開発では、これまで利用したことのあるツールを活かしたり、メンターの方に具体的な質問を行ったりすることで、作品の完成度を高めることができました。

そして、私を驚かせた話が社員の方々のキャリアです。私と同じ高専出身の方、はたまた全く畑違いの職種に就いていた方。本当に多種多様な経歴の方がいました。想像以上に沢山の選択肢があることを実感し、自身の進路を見つめ直す貴重な契機となりました。

これからインターンシップに参加する学生には、ぜひ普段の勉強や進路活動に真剣に取り組んでほしいです。自分の知識や経験を活かす機会ができると、インターンシップがとても楽しくなると思います。



メディア情報工学科
家村 一摩

私は今年度、夏季休暇を利用して株式会社ネオジャパン様に１週間、12 月頃学校をお休みして株式会社ピクシブ様に１週間インターンシップに参加させていただきました。

株式会社ネオジャパン様では、人事講義とチーム課題を通してシステム開発について学ぶことができました。

特に、５日間の日程の内後３日間をかけたチーム課題が印象に残っています。

８人いた参加者を２チームに分け、与えられた課題を解決するプログラムを作成したのですが、実際の開発と同じ工程順序を踏んで進めていきました。
課題は短い１文で与えられます。

それをチームメンバーでよりよくする案を出し、１日に 10 分程度お客様役の先輩社員との面談で仕様を詰めていくという形で進んでいました。

設計→開発→テスト→プレゼンテーションという流れが３日間で進み、とてもハードでしたがいい経験になりました。

ピクシブ株式会社様では、本選考のフローという形で実務を経験させていただきました。
実際に国内で運用されているシステムのリファクタリングを、先輩社員について行っていきました。

初の大規模開発への参加で、github や docker など利用したことはあるがいまいち利便性や細かい使い方を掴めていない技術が要求され、大変ではありましたが個人開発では得られない経験を得ることができました。



生物資源工学科
津田 隆志

私は夏休み期間の５日間を利用して、沖縄県宜野湾市にある株式会社沖縄環境分析センターのインターンシップに参加しました。沖縄環境分析センターは主に環境に関するデータの計測や収集を行っている企業です。

沖縄高専の授業内では５日間以上のインターンシップを行うことを奨励されているので、多く生徒は県外のインターンシップへ参加します。そのため私は周囲との比較のために県内のインターンシップへ参加しました。

インターンシップでは湿地保護のために設置されたビオトープの管理業務などのお手伝いをさせていただきました。高専の授業内の実験でも環境に関するものも取り扱われているので説明を受ければどのようなことを行うのか理解できたため、とても有意義な時間を過ごすことができました。特に今回の体験から普段授業内で行われていることでも実際の社会ではデータの集積につながる意義を見出すことができました。

インターンシップでは、普段の学校生活の中では味わうことのできない貴重な体験をすることができます。前準備として企業の方と連絡を取り合うことなど、考えられる以上に様々な経験をすることができます。皆さんも意欲的に参加し自分にしか体験できない経験を楽しんできてください。



生物資源工学科
比嘉 菜緒

私は８月 26 日から 30 日までの５日間、株式会社エンバイオ・エンジニアリングのインターンシップに参加し、９月１日から 13 日までの約２週間、名古屋大学大学院医学系研究科の研究室でのインターンシップに参加しました。

エンバイオ・エンジニアリングは土壌汚染改良に関する調査・開発や施工及び監理を行う会社です。業界研究会のときに会社のことを知り、土壌汚染に対する取り組みがあまり身近ではないため具体的にどのようなことをしているのか気になり興味を持ちました。業界研究会で名刺をもらいメールでのやり取りをおこなっていたため、インターンシップに関する情報を直接聞くことが出来ました。

もうひとつのインターンシップ先である名古屋大学大学院医学系研究科の分子生物学（生化学第一）研究室は、神経と癌の作動原理の探求を行う研究室です。今回のインターンシップでは、小児がんである神経芽腫に関する研究をしている沖縄高専 OB の方に教えていただきました。

エンバイオ・エンジニアリングでは、土地の汚染のおそれについて調べる地歴調査を体験したり実際に行われていた汚染の有無について調べる状況調査の現場を見学したりしました。また、浄化工事をしている現場へ行き、原位置化学酸化剤混合攪拌による土壌浄化の見学や土壌汚染対策の設計方法について学びました。他にも土壌汚染対策で用いられる製品の取り扱いをしているエンバイオ TOKYO R&D センターで工事に使用される機械の操縦を体験しました。インターンシップを通して、土壌汚染対策の各工程を詳しく知れたこと、今まで目を向けてこなかった土壌汚染問題に対して意識が変わったことに加え、会社の方々の優しさや仲の良さ、それぞれが真摯に仕事に取り組んでいる様子を目の当たりにし、企業で働くイメージを掴むことが出来ました。

名古屋大学大学院の研究室では、遺伝子組み換え技術や細胞培養など実際に授業で学んだことを用いて研究をしていました。実験の各工程について私自身授業を通し理解していたつもりでしたが、各操作の連続性や意味を深く理解していなかったことを感じ、無知であることがとても悔しかったです。また、実験手順が英語で記載されていたり研究室にいる方とのやりとりが英語であったりという現実を受け、苦手意識をもっている英語に対して積極的に取り組もうと思えました。このインターンシップには一人で参加していたため、OB の方にマンツーマンで教えていただいくことが出来ました。その中で、研究で大切なことや、研究者の良い点悪い点、実験操作のポイントなど多くのことを学びました。憧れている研究職の実態を体験してみて、自分の努力不足を痛感するとともに、この貴重な経験で得られた知識や技術をより一層高められるよう今後頑張っていこうというモチベーションの向上につながりました。

最後に、２つのインターンシップで学んだことは積極的に行動することの大切さです。興味のある分野でも知識の浅い分野でも分からないことは必ず出てきます。インターンシップの前半は緊張であまり質問をすることが出来なかったですが、後半慣れてきて質問できるようになったとき、話の幅が広がったり次の話への理解がスムーズになったりと有意義な時間が増えました。また、インターンシップ前の企業探しなども、業界研究会でインターンシップに関する質問をしたり先生方へ大学のインターンシップがないか聞いたりしていたため自分が本当に行きたいと思える企業・大学へ行くことが出来ました。これからインターンシップを経験する３年生には、受け身にならず積極的に活動してほしいです。

■就職・進学・志願状況

【令和２年３月卒業予定者の進路状況】

令和２年３月１日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
	卒業予定者数※２	39	35	35	35	144
合格状況	進学希望者数	15	8	6	15	44
	合格者数	**15**	**8**	**4**	**15**	**42**
	うち３年次編入等合格者数	11	4	2	6	23
	うち専攻科合格者数	4	4	2	9	19
	うち専門学校・その他合格者数	0	0	0	0	0
	進学合格率 （合格者数／進学希望者数）	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%	95.5%
	進学予定先※１	豊橋技術科学大学（4） 長岡技術科学大学 佐賀大学 金沢工業大学 九州大学 琉球大学 東京農工大学 東京工業大学 沖縄工業高等専門学校専攻科（4）	豊橋技術科学大学（2） 千葉大学 琉球大学 沖縄工業高等専門学校専攻科（4）	豊橋技術科学大学 岐阜大学 沖縄工業高等専門学校専攻科（2）	豊橋技術科学大学 長岡技術科学大学（3） 東北大学 新潟大学 沖縄工業高等専門学校専攻科（9）	
内定状況	就職希望者数	24	26	27	20	97
	内定者数	**22**	**26**	**27**	**18**	**93**
	内定率 （内定者数／就職希望者数）	91.7%	100.0%	100.0%	90.0%	95.9%
	内定先企業名※１ （県内） 県内に本社のある企業	沖縄森永乳業株式会社 MRO Japan 株式会社 拓南商事株式会社（2）		株式会社ビーンズラボ 株式会社ヴィッツ沖縄	琉球セメント株式会社	
		計４名 内定者に占める割合 18%	計０名 内定者に占める割合 0%	計２名 内定者に占める割合 7%	計１名 内定者に占める割合 6%	県内計７名 内定者に占める割合 8%
	内定先企業名※１ （県外） 県外に本社がある企業	東空販売株式会社 株式会社アルプス技研 三菱重工冷熱株式会社 東洋鋼鈑株式会社 UT エイム株式会社 ムラテック CCS 株式会社 矢崎総業株式会社（2） 株式会社ベアック（2） 株式会社 JAL エンジニアリング キヤノンメディカルシステムズ株式会社（2） ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社 出光興産株式会社 パナソニック システムソリューションズジャパン株式会社 ソニーエンジニアリング株式会社 ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社	株式会社オーエスデザイン 矢崎総業株式会社 ジョンソンコントロールズ株式会社 株式会社シー・シー・ダブル 株式会社 KSJ キヤノン株式会社 アスクル株式会社 株式会社富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ 株式会社日立ハイシステム 21 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 パーソルプロセス＆テクノロジー株式会社 株式会社ソフトウエア・サイエンス（2） 横河ソリューションサービス株式会社 東京エレクトロン FE 株式会社 株式会社富士通エフサス NTT データソフィア株式会社 東京計装株式会社 NTT 東日本グループ会社 ソフトバンク株式会社 株式会社 FIXER ヤフー株式会社 日本製鉄株式会社 三菱電機エンジニアリング株式会社 パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 エスアイエス・テクノサービス株式会社	ソニーLSIデザイン株式会社 チームラボ株式会社 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー（2） アイレット株式会社 株式会社オプティム 株式会社日立情報通信エンジニアリング（2） 株式会社 LIXIL アスクル株式会社 株式会社 Blueship 株式会社 NTT データフロンティア アイフォーコムホールディングス株式会社 株式会社クレスコ 株式会社セゾン情報システムズ 株式会社メンバーズ ヤフー株式会社 株式会社トヨタシステムズ（2） NTT データソフィア株式会社 株式会社日立ハイシステム 21 NTT 東日本グループ会社 合同会社 DMM.com 株式会社クリエイティブキャスト 株式会社 FIXER	株式会社クリエイティブキャスト サントリープロダクツ株式会社（2） キリンビバレッジ株式会社 DIC 株式会社（3） 花王株式会社（4） 株式会社資生堂（2） 出光興産株式会社 三洋化成工業株式会社 株式会社インテリム 理研ビタミン株式会社	
		計 18 名 内定者に占める割合 82%	計 26 名 内定者に占める割合 100%	計 25 名 内定者に占める割合 93%	計 17 名 内定者に占める割合 94%	県外計 86 名 内定者に占める割合 93%

※１. 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（　）内に示しています。
※２. 卒業予定者数には留学生を含む。
※３. 情報通信システム工学科の卒業予定者のうち１名は就職・進学を希望しない。
※４. メディア情報工学科の卒業予定者のうち１名は就職・進学を希望しない、１名の留学生は帰国予定。

【令和２年３月修了予定者の進路状況】

令和２年３月１日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
	修了予定者数	ー	5	4	7	21
合格状況	進学希望者数	ー	2	1	5	8
	合格者数	ー	**2**	**1**	**3**	**6**
	うち大学院等合格者	ー	2	1	3	6
	進学合格率 （合格者数／進学希望者数）	ー	100.0%	100.0%	60.0%	75.0%
	進学予定先※		豊橋技術科学大学大学院 長岡技術科学大学大学院	奈良先端科学技術大学院大学	奈良先端科学技術大学院大学 東京大学大学院 京都大学大学院	
内定状況	就職希望者数	4	3	3	2	12
	内定者数	4	3	3	2	12
	内定率 （内定者数／就職希望者数）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	内定先企業名 （県内） 県内に本社のある企業	日本トランスオーシャン航空株式会社			オキコ株式会社	
		計１名 内定者に占める割合 25%	計０名 内定者に占める割合 0%	計０名 内定者に占める割合 0%	計１名 内定者に占める割合 50%	計２名 内定者に占める割合 17%
	内定先企業名 （県外） 県外に本社がある企業	株式会社ダイハツビジネスサポートセンター キヤノンメディカルシステムズ株式会社 三菱電機エンジニアリング株式会社	ソフトバンク株式会社 ANA スカイビルサービス株式会社 アマゾンジャパン合同会社	エキサイト株式会社 ソフトバンク株式会社 株式会社 KDDI ウェブコミュニケーションズ	株式会社三井化学分析センター	
		計３名 内定者に占める割合 75%	計３名 内定者に占める割合 100%	計３名 内定者に占める割合 100%	計１名 内定者に占める割合 50%	計 10 名 内定者に占める割合 83%

※１　同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（　）内に示しています。
※２　機械システム工学コースの修了予定者のうち１名は就職・進学を希望しない。

令和２年度学生募集結果一覧

推薦による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	10	0	10	0
情報通信システム工学科	18	4	15	4
メディア情報工学科	14	11	10	8
生物資源工学科	9	11	8	10
男女別計	51	26	43	22
合　計	77		65	

学力による選抜

	志願者数		合格者数	
	男子	女子	男子	女子
機械システム工学科	16	0	29	2
情報通信システム工学科	33	2	23	1
メディア情報工学科	35	11	15	7
生物資源工学科	16	9	14	10
男女別計	100	22	81	20
合　計	122		101	

令和２年度（前期）行事予定表

４月

1	水	
2	木	
3	金	在学生開寮
4	土	入学式 新入生入寮
5	日	オリエンテーション 入寮式・開寮式・対面式
6	月	健康診断、課題確認試験（数学・本科1年） 教科書販売、ノートPC設定会（本科1年） 図書館利用講習会（本科２年生予定） 航空技術者プログラム履修者説明会
7	火	健康診断 教科書販売、ノートPC設定会 （本科１年）
8	水	全学年授業開始 全校集会 仮：インターンシップ説明会 （（本科４年生）
9	木	
10	金	開校記念日（授業日）
11	土	
12	日	学校説明会（名護地区）
13	月	
14	火	
15	水	交通安全講習会 （本科３年生以上・専攻科） （寮）月例清掃（４月） カウンセラー講話（本科２年生）
16	木	交通安全講習会（本科１、２年生）
17	金	
18	土	
19	日	学校説明会（中部地区）
20	月	
21	火	
22	水	キャリアセミナー（本科４年生）
23	木	仮：カウンセラー講話（本科１年生）
24	金	
25	土	
26	日	学校説明会（宮古地区）
27	月	
28	火	
29	水	昭和の日
30	木	水曜日の授業

５月

1	金	体育祭
2	土	祝日 学校説明会（石垣地区）
3	日	憲法記念日
4	月	みどりの日
5	火	こどもの日
6	水	振替休日
7	木	
8	金	
9	土	
10	日	学校説明会（那覇地区）
11	月	（寮）寮生自衛消防隊説明会
12	火	
13	水	（寮）月例清掃（５月） 性に関する講演会（本科１年生）
14	木	
15	金	
16	土	（寮）第１回特例大清掃
17	日	
18	月	（寮）学生寮前期避難訓練
19	火	
20	水	こころと体の健康調査（全学生）
21	木	中間試験等対策実践講座 （本科１年）
22	金	中間試験等対策実践講座 （本科１年）　沖縄県高校総体 （卓球、陸上、テニス）
23	土	
24	日	高専入試対策講座（名護地区）
25	月	
26	火	
27	水	仮：キャリアセミナー （本科４年生）
28	木	
29	金	沖縄県高校総体
30	土	
31	日	

６月

1	月	沖縄県高校総体
2	火	
3	水	予備日
4	木	中間試験（複数同時実施科目）
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	中間試験実施期間
9	火	
10	水	性に関する講演会（本科２年生）
11	木	沖縄高専交通安全祈願の日
12	金	
13	土	
14	日	
15	月	
16	火	（寮）第１回寮生総会
17	水	（寮）月例清掃（６月） Hyper-QU（本科１～３年生） 仮：キャリアセミナー（本科４年生）
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	高専入試対策講座（那覇地区）
22	月	
23	火	慰霊の日（休講日）
24	水	キャリア教育センター長講話 （本科２年生） 仮：キャリアセミナー（本科４年生）
25	木	
26	金	
27	土	（寮）第２回特例大清掃
28	日	
29	月	（寮）居室見学会 公開授業週間（7/3まで） 学級懇談会・ 保護者面談（7/3まで）
30	火	

７月

1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	
8	水	TOEIC･IP テスト （5 年生・専攻科生・３年航空技術者プログラム希望者） 薬物に関する講演会（本科１年生）
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	（寮）月例清掃（７月）
16	木	
17	金	
18	土	オープンキャンパス 仮：（寮）寮見学ツアー （オープンキャンパスと同日）
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	海の日
24	金	スポーツの日
25	土	
26	日	
27	月	公開授業週間
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

８月

1	土	サマースクール 高専入試対策講座
2	日	
3	月	火曜日の授業 中学校教員対象の学校説明会
4	火	木曜日の授業
5	水	金曜日の授業
6	木	予備日
7	金	前期期末試験
8	土	
9	日	
10	月	山の日
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	試験返却日
15	土	
16	日	
17	月	（寮）学生寮居室点検・清掃
18	火	（寮）学生寮居室点検・清掃
19	水	（寮）閉寮前大掃除 夏季休講前注意事項等の連絡 （HR 教室） 全国高専体育大会（9/6 まで）
20	木	（寮）閉寮　夏季休講
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	（寮）学生寮点検・整備期間
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	夏季一斉休業　旧盆（9/2まで）

９月

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	（寮）学生寮点検・整備期間
5	土	
6	日	
7	月	（寮）学生寮点検・整備期間
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	（寮）学生寮点検・整備期間
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	敬老の日
22	火	秋分の日 （寮）開寮
23	水	後学期開始
24	木	
25	金	
26	土	仮：（寮）寮見学ツアー （進路相談会と同日開催予定）
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	仮：キャリア講演会（本科３年生）

R2.1.15 現在